編集後記

。本号は、論説二篇に加え、研究ノート、史料紹介の方で若杉、矢野、芥川各氏の重厚な論考を得た。昭和五十七年中の刊行が出来なかったのはすべて編者の責任である。

。このごろ、各地の町や村を歩くたびに、思いを新たにする事がある。現在の村里や町並みから、アスファルト舗装、ブロック塀、モルタル仕上げの壁、アルミサッシの窓、せいぜいこれだけ取り除いたとすると、それだけで風格ある歴史的景観が浮かび上る。これらはせいぜい二、三〇年前に現れ、急速にはびこったものだ。町並み保存などは、何も江戸の昔を追わずともよい。昭和二〇年代のそれでさえ、もうおそろしく貴重なのだ。

昭和の二〇年代でも、もうずい分遠い。江戸や明治の昔とあまりかわらぬ感じがするほど遠いと思う。昭和二〇年ごろの町やムラを、歴史家の眼で研究する論文が、この「大分県地方史」に現われてよい時節と思う。

（後藤）

昭和五十八年一月二十五日　印刷
昭和五十八年一月　三十日　発行

大分県地方史　第一〇八号

編集者　後藤宗俊
発行者　渡辺澄夫
印刷者　中尾寿孝
別府市中央町九―一五
印刷所　日の丸印刷株式会社
（電話　㉒〇三四一）

発行所
〒八七〇―一一　大分市旦ノ原七〇〇
大分大学教育学部国史研究室内
大分県地方史研究会
（振替・下関五二九四番）